

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100618		
法人名	社会福祉法人 広和会		
事業所名	グループホーム ほのぼの青葉	ユニット名	吉番館
所在地	宮崎市宮崎駅東3丁目9番10		
自己評価作成日	令和4年7月12日	評価結果市町村受理日	令和4年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和4年8月19日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは建物の4階部分に位置し、日当たりも良く、居室も広くゆったりと生活できる。現状としてコロナ禍で外出支援ができないこともあるが、4階部分に広めの運動場があり、日光浴や散歩を楽しんでいただいている。  
また、同法人内に介護老人福祉施設やディサービス、姉妹法人として医療機関や介護施設が併設されており、研修会や会議等で意見交換の場も設けられ、良好な連携体制が構築されている。  
2ユニットではあるが「ほのぼの青葉」として、職員、利用者様が行き来しやすい環境づくりを行い、接遇面に重点を置いた独自の理念を掲げ、楽しく生活していただける寄り添うケアを心掛けている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「福祉と医療の連携を推進」を理念に掲げる経営法人らしく隣接する医療機関との連携が円滑に行われ、利用者・家族の安心につながっている。また、事業所が入る建物は入所、通所、短期入所など多様な機能を備えた複合施設であり、利用者の要介護度や家族状況の変化に応じてそれぞれの施設が柔軟に対応できる体制ができています。  
事業所は建物4階にあるが、屋外広場を備え、コロナ禍にあっても散歩などの活動が可能である。運営面では家族の要望を受け、事業所情報紙とは別に利用者個別の写真や近況報告を送付したり、職員の提案から文化祭を開催し、ガラス越しながら利用者の日頃の様子を家族に見て頂くなど、家族や職員の意見・要望にも積極的に対応している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と共にアンケート方式で事業所理念を作った。共有できるように、各ユニットに掲示し意識付けを行い実践につなげている。	前回の外部評価を受け、直後から職員間で事業所独自の理念作成に取り組み、現在は玄関等に理念を掲示するとともに、職員の意識調査をしたりして理念の共有と実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しているが、コロナ禍の為活動や交流はできていない。管理者を通して情報は得られている。	コロナ禍にあって地域との交流には限界があり、自治会とは管理者を介して情報の取得や提供が行われている。特に避難訓練の様子はお便り等で情報提供し、つながりが途切れないよう交流継続に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法は研修参加や実践を通して取り組んでいる。地域の人々に対する発信は不十分だが、常に事業所での話し合いを心掛けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催ができずに文書で情報を提供したり日頃の様子を発信している。委員の方からは、アンケート形式で意見をいただいている。	対面での運営推進会議は開催できず文書で事業所の情報提供をしたり、アンケートで意見を求めている。委員からは、コロナ禍での面会のあり方等に意見を頂いているほか、職員へのねぎらいも頂いている。	会議開催が難しい中でも運営推進会議を積極的に活かすための工夫や改善策の検討が期待される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者を中心に連携を図っている。現場での提出書類や不明な点は直接連絡を入れ、協力関係を築いている。	市介護福祉課等とは日頃から連絡を密に取り連携が図られている。特にコロナ禍での対応や防災面での対応など協力関係を築いている。またセンター方式研修を通じて関係先が広がることも期待されている。		

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、研修に参加し、半年に1回は身体拘束の理解を深めるためアンケートを実施している。ユニット玄関には鍵を掛けないなど、身体拘束をしないケアを実践している。	複合施設の利点を生かし、各事業所代表が定期的に集まり意見交換を重ねている。また事業所では職員にアンケートを行い、結果や予測されるリスクについてミーティングし、理解の共有・実践につなげている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が、研修に参加し、半年に1回は身体拘束同様、アンケートを実施している。ミーティング等で話し合う機会を設け、自身の振り返りや理解を深めながら虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、制度について直接学ぶ機会が少ないが、管理者や介護支援専門員は制度について学び、職員に対して周知を行っている。理解したり、活用できる支援までには至っていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要事項説明書に基づき説明を行い、疑問点がある場合はご理解や納得していただけるように説明を行っている。改定等の際は、文書や直接、説明を行いご理解や納得を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回はご家族向けのアンケート調査を行い、ご意見を伺っている。担当者会議を含め、日常的にご意見やご要望が反映できるように環境に配慮している。	アンケートで要望のあった面会方法の改善や「お便り通信」のサイズ拡大に具体的な改善で答えるなど、家族からの意見・要望を積極的に運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の法人の会議に出席し、事業所の現状を説明できている。また、その内容を職員に反映したり意見交換の機会を設けている。	半年に1回職員との個別面談が行われているほか、毎月定期的に事業所内ミーティングが行われ、職員の意見や提案を聞く機会が設けられている。コロナ禍の中、開催した文化祭も職員からの提案で実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度、人事考課を行い自己評価を含めて状況を把握できる環境が整っている。必要があれば、その都度面談の機会を設け、職員に対しての配慮や環境整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修計画を基に、自由に研修受講ができるようにしている。希望があれば法人外研修が受けられるように環境を整えている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流や連携できる機会は少ないが、グループホーム連絡協議会に加入しており交流や勉強会ができるような取り組みに努めている。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前からご本人やご家族、またはその関係者から話し合いをする機会を設けている。ご本人からの話を聴くことによって、安心に繋がるような関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の話を伺うと同時に、ご家族が不安なことや要望を受け止め、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の必要としている支援を見極め、事業所として「できること、できないこと」をお伝えし、他のサービス利用を考慮しながら必要な支援ができるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に過ごしながら、会話の中での言葉からヒントを得られたりご家族からお話を伺いながら、関係づくりを大切にしている。			



自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人に関することが共有できるように、必要時には連絡を行いその都度報告している。ご家族が職員に話しやすいような環境づくりを行い、本人とご家族の絆を大切にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話やタブレットを通じて連絡をしていただいたり、お便り等で事業所での様子をお知らせし、これまでの馴染みの人との関係が途切れないように支援に努めている。	コロナ禍では馴染みの人や場との関係継続は難しいが、事業所立地の良さもあり比較的面会に来やすく、一方でタブレット等の利用支援も可能である。最近では家族ごとに利用者の写真と近況報告を送付している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係性を把握し、孤立しないように支援している。また、職員が間に入ることによって楽しめる環境になるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了になっても必要な時はいつでも相談いただけるように利用中から関係性を大切にしている。また、住み替え先へ情報提供を行いながら連携を図り、フォローできるように努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位の支援ができるように、ご本人の言葉や行動を大事にし職員全員で統一した支援ができるように努めている。より詳細な情報を得るためにもご家族からお聞きしたり、職員間で意見交換の場を設けている。	会話が難しい利用者は積極的に声掛け、集団活動を好まない利用者は無理強いせず、それぞれの意向を大事にしている。気づいたことは申し送りで情報共有し、利用者の言葉を記録に残すようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から、情報収集やご家族からこれまでの暮らしの経緯をその都度、丁寧にお伺いし把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に、心身状態や有する力の把握に努め、お一人お一人の一日の過ごし方の中で職員全員が気付けるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士で日々の気づきをその都度話し合ったり、ご本人やご家族からのご意向をその都度伺うようにしている。居室担当者が毎月評価を行い、現状に即した計画を作成しており、更新時のみではなく必要に応じて臨機応変に見直しを行っている。	毎月末に居室担当者がモニタリングを行い、ケアマネが原則3か月ごとにプラン見直しを行う。課題とケアのあり方については利用者・家族の意向も伺い、家族と一緒に花を育てたり、退院に備え事前にケアマネが職員に情報を伝え対応した事例がある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録や気づきや工夫を個別に記録できている。PC上での記録の為、職員間での情報共有が図りやすい。ケアプランの見直しにも活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自費レンタルであることの説明を行った上で、ご本人にあった福祉用具の提案をしたり導入をしている。また、決められたユニット毎のシフトのみではなく、職員の配置を替えたり、ご本人のニーズに応えられるように努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心身の力の発揮ができるように生け花活動を継続したり、理美容が必要な際はご本人が決定できるように支援している。また、同法人内の他事業所とは協働しながら安全で楽しく暮らせるように支援に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族のご意向をお伺いし、これまでのかかりつけ医との関係性が途切れないように配慮している。協力医療機関に移行される場合も説明を行い同意を得るようにしている。また、皮膚科、眼科等の専門医療が受けられるように支援している。定期的に訪問歯科も取り入れている。	利用者及び家族の希望を優先し、かかりつけ医や協力医療機関を受診している。また、定期的に訪問歯科も行われている。受診は、共に詳細な情報を提供し、安心して適切に支援できる体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の看護師とはオンコール体制も整っており、日常的に相談ができる関係性ができている。また、併設されている協力医療機関の看護師とも連携が図れており、情報交換や相談が行えるように関係づくりに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院関係者との情報交換を行いながらご本人やご家族の負担が少なく済むように、また、早期に退院できるように連携が図れている。入院中には、ご家族にも連絡を行い不安を取り除けるような支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期に対するご意向を文書にて同意を得ている。心身の状態に変化等があった場合にはその都度、かかりつけ医を交えて話し合う機会を設け、チームで支援できるように環境を整えている。職員は看取りに関する研修を受講したり、勉強会を開催しながら対応できるように努めている。	入居時に看取りに関する方針を説明し、同意を得ている。終末期支援の経験はないが、日頃より、看取りに関する研修や勉強会を開催し、職員の看取りケアに対する体制を整え、家族や医療関係者との連携を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時にはマニュアル書を作成しており、それに基づき対応しているが、不具合が生じた場合は、職員で話し合い、実践で対応できるように努めている。研修に参加することによって、意識付けを行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同法人内の他の事業所と合同で防災訓練を実施したり、事業所内でも意識付けができるように勉強会を行っている。備蓄品の把握も定期的に行い、地域との協力体制も整っている。	同法人内の事業所と感染症対策を踏まえた防災訓練を年2回実施し、災害の複合化に伴い、BCPの作成に取り組んでいる。また、利用者が安全に避難できるように職員も訓練や勉強会を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所理念も接遇に重点におき、研修会参加や勉強会を重ね意識付けを行っている。全職員が一人一人の人格を尊重できるような対応を行っている。	人権意識を徹底し、研修や勉強会を重ね、利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切にしている。常に丁寧な言葉遣いで接し、利用者寄り添う気持ちを重視した対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、ご本人が自己決定できるように支援している。職員がそれぞれの希望や好みを把握できるように努めている。			

宮崎県宮崎市 グループホーム「ほのぼの青葉」(壱番館)

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように、お一人お一人のペースに合わせて支援できるように心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人お一人に合わせて衣類の選択を伺ったり、身だしなみができるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、厨房からセットされた状態で提供される。季節感のあるメニューや1年に1度は嗜好調査も実施される。食器洗いを一緒にしたり行事の中でできる方には盛り付け等を一緒にすることはある。	厨房からセットされた食事の提供である。ご飯はホームで毎日炊き、食事が楽しみなものになるように、炊き込みご飯や赤飯、ホットケーキやお好み焼き等を作って活性化を図り、行事時は盛り付けも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によって栄養バランスのとれた食事が提供されている。摂取量はチェック表で管理、把握を行い、その人の習慣や栄養面を考慮し補食等をご家族にお願いしている。その時の状態に応じ、かかりつけ医にも相談している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを習慣にしながら、できるところはしていただき、お一人お一人に合わせて口腔ケアを行っている。訪問歯科時に歯科医や歯科衛生士からアドバイスをいただき実践している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助の方であってもトイレ誘導を行い排泄を促している。排泄チェック表を利用し、排泄パターンを職員全員で把握しながら、その人に合った排泄用品を使用している。定期的におむつ類の見直しを行っている。	可能な限り、トイレでの排泄を支援している。全職員で排泄パターンを把握し、不快なく過ごせる工夫を検討し、利用者にあった排泄用品を使用し、定期的に見直しも行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分だけではなく、体操を取り入れながら予防に努めている。また、かかりつけ医やご家族に相談しながら、個人に合った内服薬での排便コントロールを検討している。			



自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は日課として決まっているが、お一人お一人にご意向を確認しながら入浴支援を行っている。入浴剤をその日によって変えたりと楽しみにつながるように工夫している。	四季に合わせた入浴や利用者の体調を見ながら声掛けして、気持ちよく入浴できるように入浴剤を用いるなどの工夫をしながらチームで支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の睡眠状況を把握しながら、ご家族に使い慣れた寝具を準備していただいたりゆっくと休んでいただけるように支援している。ご希望される時やお昼寝の習慣のある方には、昼夜逆転にならないように配慮しながら支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬に関しては、薬情に基づき内容の把握に努めている。状態の変化に伴う服薬の変更時には、かかりつけ医との連携を図り報告を密に行っている。記録もこまめにとるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の嗜好や楽しみ事を職員全員で把握し個別で支援することもある。気分転換が図れるように行事等にも工夫をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望はあるものの戸外に出かけることが少なくなった。	コロナの影響で外出が少なくなったが、4階の屋外広場で茶話会、散歩、洗濯物干しや花壇見学を日々の活動の中で気分転換等を図れるように取り組んでいる。また、重度の利用者も移動に配慮した外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭をお預かりすることはないが、必要な際には、ご家族と相談しながら支援できるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、タブレットでリモート面会できるようにご家族と相談しながら支援している。また、手紙を書くことは少なくなったが、いただいた手紙を読んでいただいたり代読する支援をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人が使用するトイレの表示を変えてみたりと過ごしやすいように工夫している。また、季節感が出るように壁面に飾り付けをするなど環境づくりをしている。	ホーム内の消毒を定期的に行いながら、共用空間の採光、空調管理に配慮するように努めている。利用者と職員の作った作品が要所に飾られて居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、自由にテレビを見たり、食堂のテーブルをつなげることなく、空間を生かし自由に行き来できたり利用者同士で過ごせるように工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみの家具や置物を持ち込んでいただいたり、ご家族の写真を飾ったりと工夫をしている。必要なものが生じたら、その都度ご家族と相談しながらご協力をお願いしている。	家族の協力を得ながら、自宅で慣れ親しんだ家財や置物等を積極的に取り入れ、落ち着いた雰囲気の中で生活できるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共有空間にはカレンダー、時計の設置をしている。トイレ等の場所がわかるように貼り紙をしたり、手すりが設置されており、また、ご自身でトイレに行かれる方で、転倒のリスクがある方には、センサーマットを利用する等、安全にも配慮している。			